

東京都土地改良だより

第147号



「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2013 水土里ネット東京会長賞受賞作品「自分たちの田んぼ」

- 目次 -

- 新年の挨拶
- 大島町災害復旧事業の査定が終了
- 地域政策に関する関係者会議に参加
- 「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2013 開催
- 第36回全国土地改良大会(北海道大会)に参加
- 水土里ネットニュース
- 農業農村整備の集いに参加

新年のご挨拶



東京都土地改良事業団体連合会

会長 山下 奉也

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様方には、希望に満ちた新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、平素から本会の業務運営にあたり格別のご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、梅雨時から時間雨量 100 ミリを越す猛烈な降雨をはじめ相次ぐ台風の影響、記録的な猛暑や竜巻など異常気象による被害が各地で発生しました。なかでも 10 月 16 日に伊豆諸島に襲った台風 26 号は、大島では想定を超えた記録的な大雨によって 36 名の尊い命が失われ、今なお 3 名の行方不明者の捜索が続けられるなど、多大な被害をもたらしました。心よりお悔やみ申し上げます。また、被災された皆様に心からお見舞い申し上げますとともに一刻も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、農業を取り巻く環境は、農業者の高齢や担い手の減少など構造的な課題に加えて、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）問題などを抱え大変厳しい状況にあります。その中でも農地の遊休化や耕作放棄は、先人たちが残してくれた貴重な資源を潰していくばかりでなく、農産物を生産し供給する農業本来の使命に反することにほかなりません。地域資源を守り、次世代に継承していくことが重要な責務であると考えております。

こうした中で、国におかれましては昨年 12 月に「農林水産業・地域の活力創造プラン」を打ち出し、「強い農林水産業」を作り出していくために農地中間管理機構を通じて、全農地の 8 割を担い手に集積・集約して生産コストを削減し競争力を強化する取り組みのほか、農地と農業施設を守る取り組みを支援する「日本型直接支払い」を創設する等、農業と農村の多面的機能の維持・発揮を図る取り組みを推進することとなっています。

本会の事業対象となる都市近郊をはじめ山村や離島の地域において、農業を振興していく上で、その基盤となる農地を良好な状態で次世代に継承していくためにも、それぞれ地域が抱える課題を明確にしながら、関係機関や団体のご支援とご協力を得て、会員の皆様方とともに農業農村整備事業はもとより、新たに創設された施策を活用して解決に向けて取り組んで参りたいと考えております。

本会と致しましては、会員の皆様方の事業実施に支障を来さないよう技術力の向上を図りながら、役職員一丸となって各種施策の円滑な推進に取り組んで参る所存でございますので、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶と致します。

地域政策に関する関係者会議に参加

去る平成 25 年 12 月 12 日(木)、地域政策に関する関係者会議が開催されました。

東京都農業会館(南新宿ビル)3 階「東京アグリパーク研修室」にて、地域政策に関する関係者会議が開催されました。

農林水産省からは、農村振興局設計課の進藤首席農業土木専門官をはじめ都市農村交流課の志田課長補佐、関東農政局の大田整備部長、三善農村振興課長、大黒農地・水保全管理室長ほか 6 名が、東京都からは武田安全安心・地産地消推進担当部長、小寺農業基盤整備担当課長ほか農業基盤整備関係の職員 12 名、土地改良区は大丸用水をはじめ府中用水、昭島用水、五日市が出席しました。また 11 市町村と JA 東京中央会、東京都農業共済組合、東京都農業会議からも出席し、総勢 51 名による会議となりました。



東京都の武田部長から開会挨拶があり、「東京農業は相続等によって農地が減少傾向にあり、農業と農地をどう保全するかという課題を抱えているが、安全・安心な生産物を都民に提供することにより、農業の大切さや多面的機能に対する理解を得ることも重要と考えており、国の新しい政策に参画していきたい」と述べました。

第一部では、農林水産省から農業農村整備事業関係の平成 26 年度予算概算要求の概要、そして日本型直接払制度についての説明がありました。「東京都は農振農用地が少なく、補助の対象とならない地域」での「日本型直接支払制度を導入する場合の条件はどのようなものか」、「草刈りや泥上げといった活動は、生産者部会などで既に取り組んでいる事例があるが、こういったものは対象となるのか」、「新たに創設された「農地維持支払（仮称）」は市街化区域でも支払の可能性はあるのか」などの具体的な質問が出されました。これらに対して、取り組みを進めていけるもの、今後具体の実例で検証していくものに分けて回答がなされました。

第 2 部は、関東農政局の太田部長のあいさつに続き、東京都の小寺課長から現状報告を述べられました。その中で、「東京都の農地面積 7,500ha の 6 割が市街化区域にあり、その 8 割が生産緑地の指定を受け集約的な農業を展開している。しかし毎年 100ha 程度の農地が相続税対策により減少していることや、5 つの土地改良区に関しては構成員の高齢化により管理の担い手確保に苦慮していることから、事務局業務はいずれも市が行っている」ことなどが挙げられました。

その後の意見交換会では、市町職員と土地改良区の組合員から、各地区の概要や維持管理に関する説明、現在抱えている問題点や要望などを挙げて、農林水産省の方々が回答する形で進められました。

これまで農林水産省が行なう多くの補助事業は農業振興地域を対象とされてきました。しかし「日本型直接支払制度」は、生産緑地やいわゆる調整白地地域も含めて対象とすることが検討されています。

第 36 回 全国土地改良大会（北海道大会）

水土里かがやく北の大地 明日を担う土地改良

～食と農業・農村の未来を確かなものに～

去る平成 25 年 9 月 11 日(水)、第 36 回全国土地改良大会が開催されました。

第 36 回全国土地改良大会北海道大会は、平成 25 年 9 月 11 日、札幌市の北海道立総合体育センター（北海きたえ〜る）に全国から土地改良関係者約 3,000 名が参集して盛大に開催されました。

オープニングの北海道民謡「江差追分」に迎えられ、水土里ネット北海道副会長の開会宣言ではじまり、同眞野会長の開会のあいさつ、主催者を代表して野中広務全国水土里ネット会長のあいさつと続き、北海道知事並びに札幌市長からの歓迎ことばの後に、来賓を代表して江藤農林水産副大臣から祝辞が述べられました。

式典は土地改良事業に功績のあった方々の表彰へと進められた後、農林水産省農村振興局小林次長による「東日本大震災からの復旧・復興の状況、農業農村整備事業の展開方向について」の基調講演が行われ、続いて、岩手、宮城、福島県の 3 県の水土里ネットから東日本大震災復旧・復興状況についての報告、北海道内で行われている土地改良事業の優良事例地区の紹介があり、道央農協青年部の若い後継者の大会宣言で式典は終了し、最後に次期開催地の山梨県に大会旗が引き継がれ閉会となりました。

水土里ネット関係者はもとより、行政をはじめ農業関係団体などが共通する目標の下に集い、こうした大会が開催されることは大変意義のあることだと思います。



大会での『改めて「明日を担う土地改良」の意味するものを噛みしめて、食と農業・農村の未来を確かなものとしていくことが重大な使命と認識し、我が国の農業・農村の礎である「水・土・里」を守り、さらに発展させ、次世代に引き継いでいくことを、』と力強い宣言がありました。

翌日は、コースに分かれての事業視察が行われ、比較的近場の厚真（あつま）町の道営ほ場整備地区と夕張市で実施中の国営かん排事業の夕張シュー

パロダムを視察しました。東京とは比べようもない
 広大な農地で行われるほ場整備には、後継者の確保
 のことや事業費の後年度負担のことなど懸念して
 いる事案があるといえ、ますますの農業の発展が見
 込まれるような内容が盛り込まれた視察でした。

例年、この大会には東京都からの参加者は他県に
 比べるまでもなく少数であり、特に土地改良事業が
 激減している近年は、事業実施会員からの参加が減
 少しています。今回は、東京都土地改良事業団体連
 合会としては36回にして初めて、会長に参加していただくという有意義な大会となりました。

出来るだけ多くの関係者が参加できるよう環境整備を進めていきたいと考えておりますので、会員の皆
 様方の積極的なご参加を期待しています。



次回は山梨！！

第37回 全国土地改良大会 山梨大会

富士の国やまなし発

かけがえのない農業を次世代へ

水土里育む土地改良

日時：平成 26 年 10 月 30 日(木)

場所：山梨県立産業展示交流館(アイメッセ山梨)

山梨県甲府市大津町 2192-8



農業農村整備の集いに参加

平成 25 年 11 月 26 日午後、千代田区にある砂防会館別館会議室シェーンバッハ・サボーにて、全国水土里ネット及び都道府県水土里ネット共催による「農業農村整備の集い」が開催されました。

「農業農村整備の集い」は、全国の農業農村整備関係者が一同に会し、現下の情勢を共有した上で、農業農村整備の一層の推進を図っていくことを目的に開催されるものです。

農林水産省からは林芳正大臣、吉川貴盛副大臣、横山信一政務官をはじめ農村振興局幹部、全国の土地連や土地改良区からは代表者ら約 750 名、また財務省からは愛知治郎副大臣、香川俊介主計局長、さらに国会議員約 120 名などの関係者が参集しました。当連合会は山下会長はじめ、西田常務理事他 3 名が出席しました。

野中会長による挨拶に始まり、国会議員の紹介や實重農村振興局長による情勢報告、国土強靱化の説明、3 土地改良区の事例発表を経て、ガンバロウ三唱を力強く唱和し、政府、衆参両院の国会議員への要請活動を展開しました。

大島町災害復旧事業(台風 26 号及び 27 号)の査定が終了

昨年 10 月、伊豆大島を襲った台風 26 号による豪雨は、大規模な土砂崩れによる土石流災害を引き起こし、36 名の尊い命と今なお 3 名が行方不明といった大きな爪痕を残しました。

被災を受けた皆様方に、謹んで哀悼の意を表するとともに一日も早い復旧と復興を祈念しております。それにしても 24 時間雨量 824 ミリ、3 時間雨量 335 ミリといった想定外の超豪雨が、火山特有の地形と地層に襲いかかり表層の崩壊を引き起こしました。木や土砂は合流しながら農地や住宅地を押し流し、大きな被害をもたらしました。

私ども土地改良事業団体連合会は、直ちに東京都の職員とともに現地調査に入り、大島町からの要請に応えるべく農地と農業用施設の被害状況を取りまとめることにしました。

被災を受けた施設は、国庫補助の農地農業用施設災害復旧事業の実施が可能ということになり、その申請のための設計書の作成に取り組みました。現地査定は、12 月 18 日と 19 日の 2 日間に亘って行われほぼ申請通り認められる結果となり、早期の復旧事業に向けて取り組むこととなりました。

しかし、被災された農家の方の中には、未だ入院中の方もいて明るい見通しとはなっていませんが、復旧に向けて一步を踏み出しました。温かく見守って行くことはもちろん、引き続き支援の輪を広げていきたいと思えます。



「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展 2013 開催

今年も全国土地改良事業団体連合会主催の「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展が開催されました。今回は全国から 9,000 点近い応募があり、その中で東京都からは日の出町の豊かな農村環境を舞台に描かれた 6 点の応募がありました。

去る 2013 年 10 月 10 日に審査が行われ、当連合会に応募して頂いた作品「自分たちの田んぼ」が水土里ネット東京会長賞を受賞致しました。順調に成長する稲の様子や周囲の自然風景がいきいきと描かれています。



「自分たちの田んぼ」



水土里ネットニュース

理事会・通常総会のお知らせ

●理事会

○日時：平成 26 年 2 月 21 日（金）

10 時 30 分～

○場所：東京都農業振興事務所 4 階会議室

●通常総会

○日時：平成 26 年 2 月 21 日（金）

13 時 30 分～

○場所：東京都農業振興事務所 4 階会議室





みどり
水土里ネット

地域で守ろう豊かな自然

<http://www.midorinet-tokyo.or.jp>

発行所

東京都土地改良事業団体連合会
東京都立川市錦町3丁目12番地11号

TEL : 042-548-0371 FAX : 042-548-0375
URL : <http://www.midorinet-tokyo.or.jp>